箱根の里「希望の森」に広葉樹を植樹しました

NPO法人　三島フォレストクラブ

箱根の里周辺はヒノキの人工林が多く、手入れ不足で幹は細く、林内は暗く、下草も生えていません。これでは水源涵養機能は低く、生物の数も種類もとても少なく、森の本来の機能を果たしていません。
教育施設のある森として三島フォレストクラブは2017年に「希望の森整備構想」を提案しました。それ以降、森林環境教育、自然教室、憩いの場となるように森づくりをお手伝いしています。

「希望の森Aブロック」は尾根部分にあたり、落葉広葉樹の森、里山的雰囲気の森を目指している場所です。2018年から今年まで段階的にヒノキを皆伐し、11種類の落葉広葉樹200本を植えました。
初春にはコブシ、ヤマザクラが咲き出し、昆虫が飛び交い、新緑が森を潤っていきます。
秋にはクリ、クヌギ、コナラ、ヤマボウシの実が野生動物や昆虫の大事な食料となり、初冬にはモミジ類の紅葉、その他樹木の黄葉など四季を通じて楽しい森となります。
去年は市民の方々に植樹をして頂きましたが、今年はコロナ禍の影響で三島フォレストクラブ会員のみで3月7日に植樹を行いました。芽の出る前の早春が植栽の適期です。

春　ヤマザクラの開花

初冬　イロハモミジの紅葉

今、どこの森でも深刻な問題となっているのがシカによる食害です。
植樹した樹木の新芽を食べ、幹も皮を剥がされて枯れたり、成長も極端に悪くなります。
そこで、植樹するエリアを囲む形で防獣ネットを張り巡らし、シカの食害を防ぐ取り組みも同時に行いました。

シカに枝を折られ、幹もかじられたフジザクラ